

第2次菊川市総合計画策定に伴う SWOT分析による戦略課題の検討

1 SWOT分析について

今後の計画づくりに向けて、社会情勢や市の動向把握要素を用いて、解決すべき課題や課題解決の方向性を検討します。この検討のために、主に民間企業の戦略分析に用いられている「SWOT分析手法」を活用します。

SWOT分析については、組織の内部環境を「S（強み）」、「W（弱み）」の観点から、組織の外部環境を「O（機会：プラス要因・追い風）」、「T（脅威：マイナス要因・逆風）」の観点から整理し、組織の資源と課題を抽出・把握するための分析手法の1つです。

通常、次のような表を用いて分析を行い、事業・施策や政策の選択や集中といった「戦略」を検討・立案するために活用します。

外部環境 内部環境	機会（プラス要因・追い風） （Opportunity）	脅威（マイナス要因・逆風） （Threat）
市の強み （Strength）	【成長戦略】強みによって機会をさらに活かす方向	【回避戦略】強みを発揮して脅威を回避・克服する方向
市の弱み （Weakness）	【改善戦略】機会を逃さないように弱みを改善する方向	【改革戦略】最悪の事態を招かないように弱みを克服し改革する方向

①外部環境分析

外部環境（機会、脅威）の整理にあたっては、現在及び今後の社会情勢、経済情勢等に係る、次のような要因をふまえます。

社会経済情勢	1) 経済的要因	4) 文化的要因
	2) 社会的要因	5) 制度的要因
	3) 技術的要因	

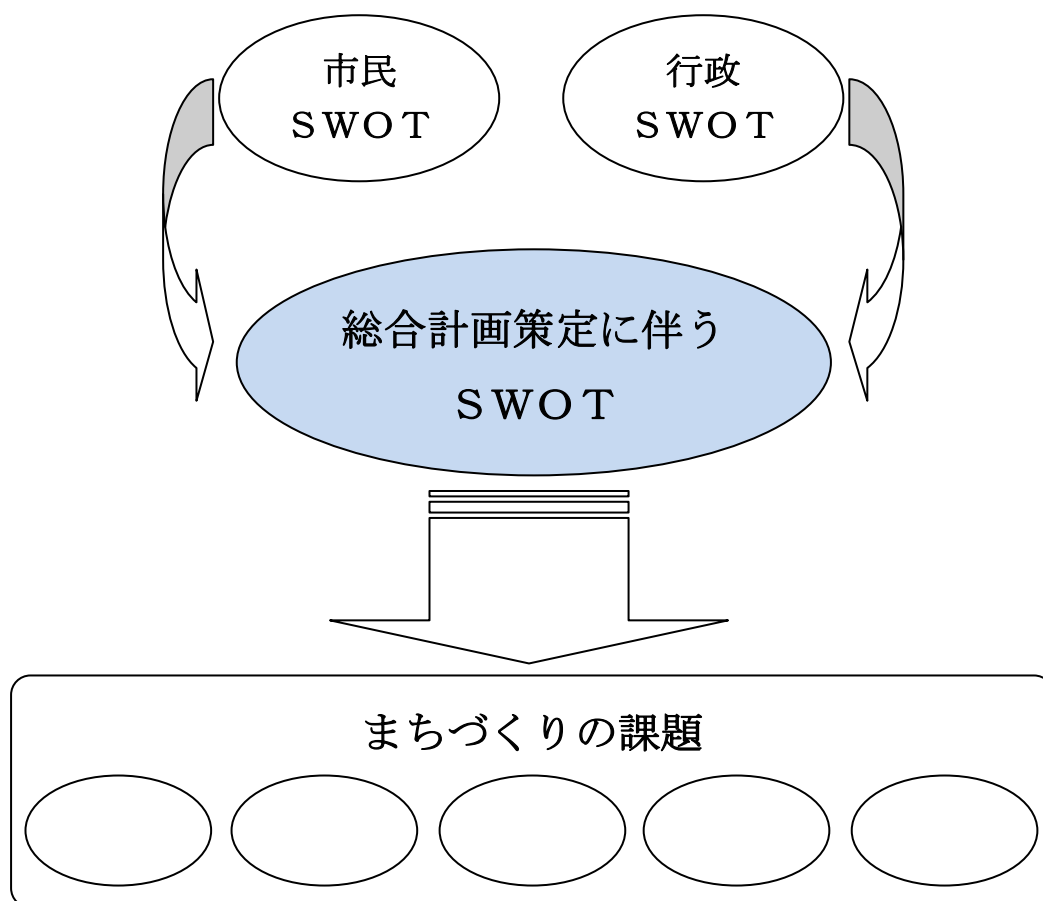
②内部環境分析

内部環境（強み、弱み）の整理にあたっては、次の4つの資源に着目して、該当する要素がないか検討します。

行政・住民・企業など	1) 人的資源	3) 財務的資源
	2) 物的資源	4) 技術・情動的資源

2 今後のSWOT分析の流れ

現在、市民や過去データによる視点からのもの、行政や市議会による視点からの分析を行っていますが、これらを一つにまとめ、菊川市の今後のまちづくりに対する課題や方向性、目標を分析していきたいと考えています。



(2)SWOT分析結果 <※市民アンケート、意識調査等を基にした委託業者(ランドブレイン㈱)の素案>

外部環境（機会、脅威）と内部環境（強み、弱み）の組み合わせから成る 4 つの領域【成長戦略】、【改善戦略】、【回避戦略】、【改革戦略】ごとに、戦略（解決すべき課題点や課題解決のためのとりくみの方向性）を示します。

■SWOT分析による今後の計画づくりに向けて、解決すべき課題や課題解決の方向性

			菊川市をとりまく外部環境	
			プラス要因	マイナス要因
			■地方分権と行政改革の推進 ■価値観の多様化 ■安全・安心意識の高まり ■教育や子育てに対する関心の高まり ■地域の歴史、文化の再認識 ■市民参画・協働意識の高まり ■高度情報化の進展	□少子高齢化・人口減少の進行 □環境問題の進行 □地域経済をとりまく環境の変化 □社会資本の老朽化
菊川市の内部環境	強み	●市の魅力として「自然豊か」「茶」「交通利便性」があげられる（平成 26 年度 市民アンケート、企業・事業所意識調査） ●多くの市民が「住みやすい」と評価（平成 26 年度 市民アンケート） ●緑茶が名産であり、自然が豊かでコンパクトな土地利用が形成される ●県下市部中においては高い出生、若い年齢構成 ●人口動態における社会増傾向 ●保育園の充実などによる子育て環境 ●広域交通軸（東名高速、ＪＲ線等）が横断し、鉄道駅、ＩＣを中心にした交通網が形成される	【成長戦略】（強みによって機会をさらに活かす方向） ■●自然資源、特産物の地域ブランドとしてのブラッシュアップ・ＰＲや 6 次産業化などの展開 ■●市民の「地域愛」の醸成や市民参加による、住み良いまちの環境維持 ■●子育てや子どもに対して「やさしい」まちとなる取組の維持、継続 ■●鉄道駅、ＩＣといった広域交通拠点を中心にしたコンパクトな市街地形成	【回避戦略】（強みで脅威を回避・克服する方向） □●転入人口、若年齢層人口の定着による都市活力の維持 □●残存する自然環境の保全と共生 □●お茶をはじめとした菊川市の特産品による地域独自ブランドの確立と収益性の確保 □●居住や子育てに対する環境の優位性を維持
	弱み	○比較的若い人口構成である一方、全市人口は減少期に突入、高齢者の単独化も進む ○低い若年世代の定住意向（平成 26 年度 中学生・高校生意識調査） ○事業所数の対人口比（県下市部 22 位）などにみる産業集積の低さ ○商業系指標の減少傾向 ○就業環境に関する不安（平成 26 年度 企業・事業所意識調査、大学生意識調査） ○財政力の低下（財政力指数が県下市部 21 位） ○65 歳以上人口の増加や介護給付負担等の増大	【改善戦略】（機会を逃さないように弱みを改善する方向） ■○生産活動と居住、自然環境のバランスに配慮した市街地形成 ■○若年世代に対する菊川市の住み良さ等の PR ■○住民主体による地域に身近なまちづくりの展開 ■○市民の見守りに基づく地域コミュニティ機能の充実（地域福祉の展開）	【改革戦略】（最悪の事態を招かないように弱みを克服し改革する方向） □○暮らしに身近な（商店、各種生活サービス機能を有する）施設の確保 □○安心安全な地域生活環境形成 □○安定的な財源確保と効率的な福祉サービスの実践 □○少子・高齢社会に応じた公共施設ストックの適切な維持・管理及び整備の推進

		菊川市をとりまく外部環境	菊川市をとりまく外部環境
		プラス要因	マイナス要因
		【自然環境】 【生活環境】 ■地域の風土、自然への関心の高まり ■温暖な気候に恵まれる ■循環型社会、自然エネルギーへの関心の高まり ■情報化社会、通信回線の普及 【子ども子育て】 【教育】 【社会教育】 ■子ども子育て支援法、子どもの貧困対策法が制定 ■子育て支援サービスのニーズの高まり ■子育てに対する一層の関心の高まり ■マスコによるデジタル情報の発信（子育て・暮らしのしやすさ） ■高度情報化・ICT先進地区としての認知度が高まる ■いじめ防止への気運の高まり ■教育への関心の高まり ■和食のユネスコ無形文化遺産への登録 ■ラグビーW杯静岡県会場選定（エコパ） ■富士山の世界遺産登録 ■東京オリンピックの開催（2020年） ■首都圏からのスポーツ合宿ニーズ 【福祉・医療】 ■CCRCの構築 ■健康志向の高まり（食、自転車、ウォーキング愛好者の増加等） ■「健康寿命日本一」（静岡県） ■社会保障改革の進展 【産業・就業】 ■景気の回復基調 ■規制緩和によるビジネスチャンスの拡大 ■内陸フロンティアを拓く取組み ■団塊世代の退職による人材供給 【農業】 ■茶草場農法の世界農業遺産登録 ■お茶の効能に関する立証、再認識 ■農林水産業に対する注目度の高まり 【商業・観光】 ■中国人、ムスリム観光客の増 ■富士山静岡空港利用者増（中国からのチャーター便） ■インターネットショッピングの浸透 ■グリーンツーリズムの推進 ■創業支援の展開 【防災・防犯】 ■津波被害に関する再認識 ■地震対策の進化(静岡県) ■災害対策に係る「絆」の大切さの再認識 ■安全、防災への関心意識の高まり ■空き家対策法が施行し老朽化した危険な空き家の除去が可能 【公共交通】 ■広域交通利便性が高い ■静岡空港への近接性 ■J R東海道線駅の立地 ■中国人観光客が増加 ■東名高速道路インターチェンジの立地 【都市基盤】 ■旭テックの撤退による駅周辺の高度利用 【土地利用等】 ■駅周辺等の開発余地の高さ ■政令市（静岡市・浜松市）の中間に位置する立地特性 【人口・コミュニティ】 ■地方創生政策の進行 ■住みやすいまちへの移住意向の向上 ■ふるさと帰郷・田舎志向の高まり ■地域のつながり（共助）への意識の高まり ■国際交流の進展（外国人観光客の増加等） ■民間企業の行政参画・協働意識の定着	【自然環境】 【生活環境】 □地球温暖化 □異常気象の増加 □環境問題 □消費税増税による個人消費の減少 □サラリーマン世帯の総貧困化 □ひとり親家庭の増加 □非正規労働による経済不安 【子ども子育て】 【教育】 【社会教育】 □母親の孤立化、虐待 □出生率の低下 □学力の成果主義 □子どもの基礎的運動能力の低下 □民間フィットネスクラブへの需要流出 【福祉・医療】 □社会保障の増大 □中東遠地域の医師不足 □健康への不安（健康志向の高まり） 【産業・就業】 □中小企業の景気が向上していない □地域経済の衰え □就業環境、賃金低下 □労働者の減少 □女性の社会進出を阻む労働環境 □格差社会の進行（雇用問題、経済） □働く場所が無いことによる他市への人口流出 【農業】 □お茶の価格低迷&国内消費量減 □食糧輸入拡大 □茶の消費方法が安いペットボトルが主流に □荒廃する森林・里山の増加 □食料自給率の低下 【商業・観光】 □観光名所の少なさ、客数の少なさ □集客性の高い商業施設がない 【防災・防犯】 □浜岡原発の原子力災害への懸念 □東海地震災害への懸念 □犯罪の増加、凶悪化、低年齢化 □異常気象によるゲリラ豪雨、真夏日、台風上陸の回数の増加している 【公共交通】 □第2東名、リニアの開通 【都市基盤】 □公共施設に必要な国庫補助金等が削減 □社会資本の老朽化 【土地利用等】 □東京～名古屋間みると通過地点でしかない □静岡市、浜松市から距離がある 【人口・コミュニティ】 □首都圏への人材集中、地方人口の減少 □人口増加（定住促進含む）施策を打ち出す □晩婚化、非婚化 □少子高齢化・核家族化・独居高齢者 □人間関係の希薄化
菊川市の内部環境	弱み	【改善戦略】(機会を逃さないように弱みを改善する方向) ■子育てサービスの周知、利用促進 ■学力向上、進学に対する相談機会等の充実 ■スポーツ、地域文化に対する市民の関心を醸成 ■市民の見守りに基づく地域コミュニティ機能の充実（地域福祉の展開） ■新たな人材活用の促進 ■菊川の「農業」の独自性のPR ■広域交通アクセシ性を活かした町外からの来街者の誘導 ■災害危険箇所の再確認と地域の協力に基づく整備の推進 ■広域交通網とのアクセシ性向上（運行ダイヤ等の改善） ■菊川駅を中心とした市街地の一体的な改善 ■生産活動と居住、自然環境のバランスに配慮した市街地形成 ■住民主体による地域に身近なまちづくりの展開	【改革戦略】(最悪の事態を招かないように弱みを克服し改革する方向) □暮らしに身近な（商店、各種生活サービス機能を有する）施設の確保 □高等・専門性の高い教育機関の誘致検討 □スポーツに親しむ機会の充実、啓発活動の推進 □安定的な財源確保と効率的な福祉サービスの実践 □雇用促進策の展開 □農業従事者の多面的な確保 □菊川駅周辺等の再活性化の推進 □ハザードマップ等の見直し、周知 □交通機関への要請 □公共施設ストックの適切な維持・管理及び整備の推進 □菊川駅周辺地域の外部からの吸引力向上 □若年世代に対する菊川市の住み良さ等のPR